

フジオックス・経営改革への挑戦(下)

新会社法で求められる
会計業務のスピード化
新会社法の施行で、企
業規模にかかわらずすべ
ての会社が会計業務のス
ピード化を実現するようにな
る。

荒川区、藤本孝雄社長)は、カナデンブレイインのLPG統合情報管理システム『スーパーX』の導入で、これまで事業・業務分野ごとに分散していた管理システムを一元化し、パソコンをフル活用して、経理システムにオービックビジネスコンサルタント(OBC)の財務ド強化と業務の効率化、平進化を進めているが、もう一つ、会計業務の面でも大きな改革を加えている。

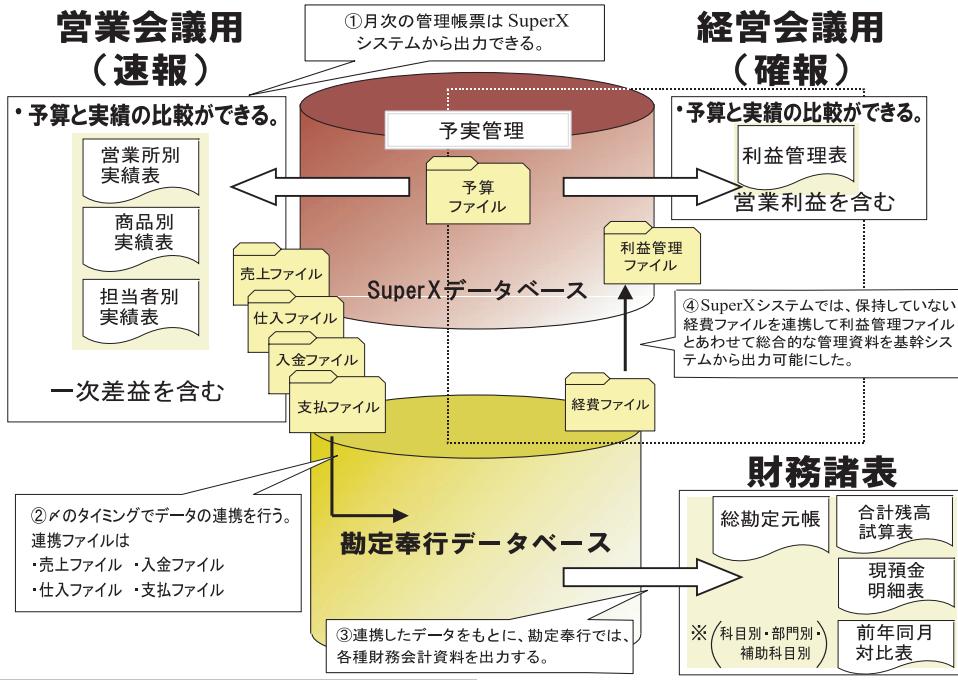
粗利と予算対比など
管理を目的とする資
速報として作成でき
かし、経理から「れ
データを確認し、財
計に反映するには基
システム側で入力した

業がナショナルに貢献する力ミスを防ぐことができる。連携を完了した時占で経理システムでは総勘定元帳や合計残高試算表などの各種財務諸表を出力できるようになる。

『勘定奉行』の活用はこれほどまらない。

スケート分析によれば、議のための資料であることがわかる。

から月次
なり、予
く合わせ
く可能に
く分析
だ。
た」 というのが藤本社長
のカナデングレイン評
だ。
同社は今12月、創業
80周年を迎える。
業界をとりまく環境の



フジオックス本社

会計業務を迅速処理
企業価値高め創業80周年へ

携していると、どうよりは、それぞれが役割を分担し、補完しあって企業全体を統合的に管理し、経営の効率化を図る業務横断型のシステムだといえよう。

ムでは基幹となる『スルバーパーク』が「勘定奉行」の補助元帳となり、データベースが双方に向に連携している。役割の異なる二つのシステムが連

月次決算の早期化を目的としてシステム選定を行っていた。販売システムとあわせて統合的に導入することをテーマにされており、当社の会計パッケージシステム「勘定奉行（ネットワーク対応版）」を選択していく。このシステムは、今年5月に施行された新会社法にも対応してい

入した統合情報管理システムを
テムを変化に対応した素
早い経営戦略と戦術の立
案にフルに活用し、企業
価値を高めていく考え方
だ。